

第二十五回 顎関節症と脳・内臓との関係及びねこ背

脳の前面が神経支配しているのが足であり後面は頭であり側面は反対側の内臓及び骨格であり、脳の真中の正中線上は後ろから前にかけて体の真中の鼻、のど、首、食道、背中の痛み、みぞおちの裂孔ヘルニア、胃、子宮、痔、前立腺の神経を支配しています。

自律神経失調症及び自律神経失調症のうちの「うつ病」は必ず脳の正中線上に異常をおこし、又、大なり小なりの「ねこ背」をおこしています。

そして血の流れが悪い為両足の冷え性、又は両足のだるさを持っています。この様に自律神経失調症は、首の骨は「直」又は「逆カーブ」です。これを治すのは歯の咬み合わせです。

それではこの脳の異常反応をおこしている原因は、上唇を上へめくり上げますと真中の上唇小帯と下唇を下へさげますと真中の下唇小帯があっているかどうかです。又、歯の一部分の歯の咬み合わせが高すぎるか又は逆に低すぎるかです。

右のおでこのあたりの脳が異常反応をおこしていますと（時には頭痛）その側の歯の咬み合わせの高さが高いか、低いかどうかであり神経は左右逆になっている為に左の足のどこかが痛いところがあると云うことです。又、右横後の脳ですと左の首・肩・腕・手が凝っているということです。

それが左右横後ですと真中の脳も異常反応をおこし左右の首・肩・腕・手が凝っているだけでなく、首の骨は「直」になっています。そして自律神経失調症をおこしています。そしてこの様に脳に異常反応をおこしますと血流等が悪く、色々な脳の病気（脳梗塞、アルツハイマー等）を引きおこすことにもなります。その為、一生涯大きな病気をおこさなければよいが・・・と云われるのもこのことです。

左の手・足の両方がしびれるというならば右の側面の脳に異常反応をおこしていることです。

肝臓右ならば左の脳、副腎ならば左右の脳の左右同じ位置の辺りに異常をおこしています。そして自律神経失調症に必ず反応するのは左右の耳と耳とを結んだ頭頂骨の正中線に「百絵」という「つぼ」があります。

この「百絵」の反応を消すには歯の咬み合わせの高さのバランス（前後・左右・対角線）が関係していますし、また一時的に反応を消すには両足のつま先を一パイ外側に開けば消えますが百絵だけでなく正中線の異常なところも一時的に消え、背骨もピンと張るようになるだけでなく、咬み合わせの高さも変わってくる事になります。つまり「ねこ背」が消失する事になります。

またあおむけに寝た時に左右の足の開きが均等でないということは、頭蓋骨が捻じれをおこし顎関節症をおこしているだけでなく脳の異常又内臓のどこが悪いところがあるということです。

そしてそれを打ち消すには脳の異常反応をみながら歯の高さを調整しなければなりません
が頭蓋骨がズレ、捻れをおこしている状態では逆効果となります。

頭蓋骨のズレ、捻れをおこしていますと必ず頭蓋骨から下の体がズレ、捻れをおこして
おります。頭蓋骨から下だけを治しても頭蓋骨は正常な状態には戻りません。(但し子供の場合
は除く)

頭蓋骨から下を治して、それから頭蓋骨の調整をせねばなりません。又頭蓋骨だけ動かそ
うとしても動きはしませんし、頭蓋骨がズレ、捻れた状態で歯の咬み合わせを作っていま
すと首から下を治しても上下の歯で食べ物を咬んだりしますと又元のズレた体に戻ってし
まいます。

「ねこ背」は足のつけ根の股関節に異常をおこしています。そして左右の股関節と関係の
ある左右の歯を調節しなければなりません。

普通の歯は歯根膜というクッション作用を持っていますが頭の骨と骨との接している縫合
部が固着していますと歯の咬み合わせの高さが正常であっても高く感じます。固着をはず
しますと患者は高くないとよく咬めると申します。(高いからと云って歯を削りますと脳に
異常反応をおこします)

また走ったりした時の衝撃が加わらない為に背骨は前後にS字湾曲、首の骨は前湾に曲が
ってクッション作用を持っていますが人工歯であるインプラントの場合は骨に直接くっつ
いているゆえにスプリング作用がない為、咬む、くいしばりにより上顎から直接に脳に衝
撃を加わり頭痛、首、肩に初め色々の問題をひきおこします。(グラグラと動いているの
ではなく、しっかりくっついている為に・・・) 歯科で一番多い医療紛争はインプラント
です。